

THE
NMUN KOBE TIMES

Kobe City University of Foreign Studies

会議本番まで一ヶ月と迫り、
代表らが「モーション」をかける

秋が深まるなか、模擬国連(NMUN)の参加者はより実践的な練習に取り組んでいる。本番初日のちょうど一か月前にあたる10月22日に、神戸市外国語大学(KCUFS)で模擬国連に向けての準備のために開かれた4回目の授業では、動議を述べたりスピーチの練習が行われたりした。授業では実際の会議と同じように参加者が動議を述べ、公式と非公式の両方のディベートの中でスピーチやディスカッションが行われた。

授業は議題の優先順位を決定するスピーカーのリストを作るための投票から始まった。参加者はプラカードを挙げるか、議長にメモをまわしてスピーカーのリストに加えられると、スピーチをすることができる。ガーナ(総会)、ソマリア(国連難民

高等弁務官事務所)とウガンダ(経済社会理事会)の代表者は順番に議題の優先順位について90秒のスピーチを行った。

例えばガーナ(総会)は、大量破壊兵器の廃絶について議題1を優先する意向を述べた。ガーナ代表の一人である、本学1年生で国際関係学科の山根菖香さんは「この議題について既にいくつか協定が結ばれているが、未だにウラニウムの密輸がされており、核兵器の数は減っていない」と指摘した。

議論を10分間中断する提案の後で、会議は議題の優先順位を検討する非公式ディベートへ移行し、この間に初対面であるとの仮定のもとに、ほかの参加者に自分の意見を働きかける試みをした。

(次項へ続く)

1巻4号翻訳担当者

那須彩乃 阿部望美 (ICC 翻訳クラス) 大石紗英 森田帆風 (ジャーナリスト)

フォーマルディベートでさらに3か国のスピーチが行われた後、議題を1、2の順番で優先順位をつけることが、プラカードでの投票によ



って可決された。ここでまた、スピーカリストが公表され、ガーナ(UHCR)、オーストラリア(GA)、そして日本(SC)が各議題の政策についてのスピーチを行った。

例えば、ガーナ(UHCR)は子どもたちが暴力に苦しんでいる現状について話した。本学英米学科1年生でガーナ代表を務める井上稚菜さんは、こう述べている。「WHOによると、約2億2千人の世界中の子どもたちが、性的もしくは家庭内暴力を経験したことがあると言われています。ガーナはこの状況から子どもたちを救うために、性や避妊についての学校教育、児童労働に関する法の制定、被害者のための保護施設が必要だと考えています。」

会議を10分間中断した後、大使らはもう一度インフォーマルディベートを行い、その中でグループを編成したり、他の代表と議題について話し合ったりして、ワーキング・ペーパーを共同して作ることができないか、可能性を探った。

別のフォーマルディベートでさらに2か国が議題1の政策についてスピーチをした後、大使らはインフォーマルディベートを開始し、機関ごとに二つ、あるいは三つのグループに分かれてスピーチの練習を行い、各グループのメンターがそれに対し助言を行った。

それから再びフォーマルディベートに戻り、さらに4か国が政策のスピーチを行った。例えば、ソマリア(ECOSOC)は政策についてのスピーチの中で識字率の問題を強調した。名古屋外国語大学 Liberal Arts and Global Studies 学部3年生の赤部楽子さんは、こう述べている。「ソマリアは教育カリキュラムのすさまじい欠如に苦しんでおり、15歳以上の全人口の62.2パーセントが読み書きができないのです。」彼女は「資産を保つための他国



からの金銭的援助よりも持続可能な生活のための教育や知識を与えるための物質的な援助」を要求した。

政策についてのスピーチの後、会議を40分間中断し、代表は再び各機関別に分かれ、政策やワーキング・ペーパーについて話し合った。

国連総会は三つのグループに分かれた。その中の一つのグループで、オーストラリアの代表が、核兵器の拡散を制限し、核エネルギーの平和利用を促進する核拡散防止条約(NPT)の実施についての議論がすぐに必要であると述べた。

モーションが提出されるケース

- アジェンダの設定を求める
- 会議を一定の時間一時中断を求める
- スピーカーを決めたり、持ち時間を変更したりする
- 修正案やDRの投票に移るためにディスカッションを終了する
- スピーカー・リストへの追加を中止する
- 点呼投票を実施する
- 全会一致によるDRの採決を行う
- 会議の延期を求める

政策についてのスピーチの後モーションが行われ、代表らは再びそれぞれの委員会に40分間分かれ、政策やワーキング・ペーパーについて話し合った。

国連総会は三つのグループに分かれた。ある一つのグループでは、オーストラリア代表が核拡散を規制し、核エネルギーの平和的活用を促進する核不拡散条約の実施のため至急話し合う必要がある、と述べた。また、増加しつつあるテロリズムの脅威についても触れた。ニュージーランド代表は兵器用核分裂性物質生産禁止条約の強化、北半球における非核兵器地帯の拡張を提案した。前者の条約は世界中への核物質の拡散を防ぐためのものである。これらの案に対しメンターは、それらを達成するための目標についても議論すべきである、と提示した。



二つのグループがある経済社会理事会の一つでは、ソマリアは、漁業中の船に攻撃などして大きな損害を与えている海賊船に対する解決策を求めた。これは十分な教育を受けていないために海賊になってしまうことから起こるからである。また、このグループはアフリカ諸国における高い失業率をどのように処理すべきか議論し、他言語を学ぶべきでは、という意見も含んだ解決策を提示した。

国民難民高等弁務官の代表は二つのグループに分かれた。一つのグループでは、ウガンダはドローンには早魃を解決するための水資源を発見できる有用性があると述べた。ソマリアは海面や早魃の変化などの環境変化を予想できるアースシステムモデルの有益性について言及した。また、国際連合食糧農業機関によって承認されすでにいくつかの中南米諸国に導入されている食糧エコシステム、政策の設置や自然エネルギー資源の使用を奨励する法律、そして持続的農業を発達させるための会議企画をも推奨した。

安全保障理事会では、日本は北朝鮮、韓国、ロシア、中国そしてアメリカと共に六者会合で働く重要性について主張した。この会合は、北朝鮮における核実験と平和的原子力利用問題について解決するためであるが、2007年から行われていない。ニュージーランドは北朝鮮に対しより強力な制裁と核使用可能である44か国のうち8か国が承認しておらず、実行を心待ちにしている核不拡散条約への承認を求めている。

「担当機関の一人ひとりとアイコンタクトをとることが大切です。たくさんしゃべる必要はありませんが、重要な点を具体的にし、スピーチの中でゆっくり、はっきり述べるのが望ましいです。また、スピーチ内では具体的な数字を使うようにしてください。」 植田奈菜子

メンターからのアドバイス

「抽象的な改善点だけでなく、もっと詳細に説明する必要があります。それをどう改善するか、つまりなぜその部分の改善点に焦点を当てるか、そして、その改善点を補強すればどんな効果をもたらされるかを続けて言えれば良いでしょう。」 橋本智美

「説得力があり心に残るスピーチをする為には引用が必要です。他の大半の人々と同じように、ただ資料を共有だけではダメです。」 エミリー・ジョンソン

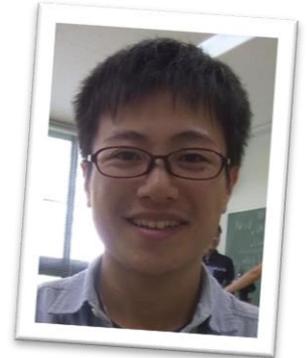
「自分のアイデアばかりに気を取られ過ぎないで、ほかの人のアイデアに耳を傾けて下さい。もし言葉に詰まったら、例えばワーキング・ポリシーであれば、他の人にそのポリシーについてどう思うか聞いて、返事をくれるまで待ちましょう。」 岸本崇司

インタビュー

この号では、模擬国連経験者のそれぞれの委員会リーダーに話を伺った。

自らのアイデアをより説得力のあるものに

経済社会理事会のウガンダ代表、早川航洋さんは、彼が本当に求めている情報を英語で集めることの難しさについて語った。これは彼が取り扱う問題は、あまり知られていないからである。ウガンダは発展しておらず、ただ支援を受ける側と思い込んでいたが、調査の途中で、ウガンダのみで国際計画を作る、というような問題に取り組むため支援を求めている、ということを知った。彼は英語でスピーチを作るとは難しいと言う。なぜなら限られた情報しか使えないので不安になるからだ。自分の意見をしっかりと持ち積極的に伝えていくことが重要である、と続けた。



ニュージーランドの新しい発見

安全保障理事会のニュージーランド代表、東美優さんは特にこの模擬国連の集まりでスピーチをするのがとても不安だと言う。日本人は表情やジェスチャーが少ないので自分の伝えることを彼らが理解しているのか分からないためである。ニュージーランドの調査について彼女は積極的に取り組んでいる。「ジャマイカ代表だった前回の模擬国連とよく比べてしまいます。ニュージーランドは先進国なのでオンラインで情報を集めるのがずっと楽です。それに、ニュージーランドを違った観点から見れるのでわくわくします。」彼女はこの会議を通して、自分自身が成長することを望んでいます。「どれだけ一生懸命取り組んだとしても、いつも上には上がいます。敗北感を味わいますが、それがいつも私を駆り立てます。」



言語の壁を乗り越えて

国連総会のオーストラリア代表、仲村拓巳さんはこの模擬国連に意欲的に取り組んでいる。しかしポジションペーパーを書くときに、代表として、様々な視点を持つことについて難しく感じていた。オーストラリアは先進国の一つであり、会議の方向性の決定に影響力を持っているために、他国の立場についても考えなければならないからである。また、会議の進行を予想し、様々な状況で使えるような言い回し、動詞、そして名詞を予習している。言葉の壁があるために、日本の代表は英語で書かれた資料を日本語でしっかり自分のものにすることが大事である、と彼は伝える。



常に積極的に

国民難民高等弁務官のソマリア代表、野村ニイナさんはポジションペーパーを書き始めたときソマリアについてほとんど知らなかった。彼女は大量の英語文献を読み、ソマリアについて誰よりも知っている教授や専門家と連絡を取り合った。彼女はスピーチでソマリアの政策を親しみやすい雰囲気でも人々に伝えるようにしている一方で、彼女の要点を的確に伝えるようにしている。それは、ソマリアと同じ状況の国が彼女の目標に協力する可能性もあるからである。「一番大切なことは恐れず、恥ずかしがらずに間違いをしていくことです。私たちはこの機会を前向きに楽しむべきです。」

